

## 【投稿・執筆規定】（平成 28 年 2 月 1 日改訂）

### I. 概要

**内容**：MHC に関する基礎研究から臨床研究まで全てを対象にし、未発表の論文、他誌に投稿中（もしくは掲載予定）でないものに限る。

**資格**：著者(共著者を含む)は、原則として本学会会員に限る。

**倫理**：ヒトおよびヒトの試料を用いた臨床研究・基礎研究の場合、ヘルシンキ宣言（「ヒトを対象とする医学研究の倫理的原則」、1964 年第 18 回世界医師会ヘルシンキ総会採択、2013 年フォルタレザ総会修正）に基づき、文部科学省が定める関連倫理指針（「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析に関する倫理指針」、「ヒト ES 細胞の分配及び使用に関する指針」、「ヒト i P S 細胞又はヒト組織幹細胞からの生殖細胞の作成を行う研究に関する指針」等）に従うと共に、当該施設の倫理委員会の審査を経て、施設長による承認を得たものでなければならない。また、遺伝子組換え実験は「遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律（いわゆるカルタヘナ法）」、動物を用いた研究については動物愛護管理法に基づく「実験動物の飼育及び保管等に関する基準」(2006 年環境省告示)などを遵守し、それぞれ所属施設における関連委員会等にて所定の手続きによる審査・承認のもとに行われた研究でなければならない。

**種類**：原著、総説、シリーズ、短報(研究速報、技術速報などを含む)、症例報告などとし、日本語、英語を問わない。

**審査**：投稿論文掲載の採否は当誌編集委員会において決定し、審査は複数の査読制で行う。審査の結果を踏まえ修正、削除、加筆などを求める場合がある。

**著作権**：本誌に掲載された論文などの著作権は日本組織適合性学会が有し、インターネットを通じて電子配信されることがある。とくに、原著、総説については、原則として科学技術振興機構（JST）が運営する電子ジャーナル配信サイト（J-STAGE）にて配信される。

**掲載料**：掲載は無料であるが、カラー写真など特別印刷に関わる経費は著者の実費負担とする(カラー印刷を希望の場合には、投稿原稿にその旨を明記すること)。

**別刷**：別刷（抜き刷り）は有料とし、その経費は別冊部数やページ数による(別冊希望の場合には、著者校正の際にその旨を明記すること)。

## II. 原著執筆書式

### 1. 執筆要項

400 字詰め原稿用紙換算で 30 枚(刷り上がり 12 頁程度)以内とする。図, 表, 写真は, 1 点につき原稿用紙 1 枚分に該当するものとし, それぞれに表題を記載し, 挿入箇所を本文に明記する。また, 図説は別紙で作成し, 本文の昀後に添付する。本文は Microsoft Word で作成し, 表は Microsoft Word もしくは Microsoft PowerPoint, 図, 写真は Microsoft PowerPoint を使用する。原稿は記憶媒体 (CDR 等) に保存もしくは Email 添付で投稿レターを添えて編集長に送付する (送付先は投稿・執筆規定の末尾を参照)。

### 2. 1 頁目

表紙とし「原著」を明記し, 日本語と英語でタイトル, 著者全員の氏名と所属に加えて, 連絡責任者の住所, 氏名, 電話番号, FAX 番号, E-mail アドレスを記載する。なお, タイトル, 著者名, 所属の記載は下記の形式に従う。

Susceptibility gene for non-obstructive azoospermia in the HLA class II region: correlations with Y chromosome microdeletion and spermatogenesis.

Tetsuya Takao<sup>1)</sup>, Akira Tsujimura<sup>1)</sup>, Masaharu Sada<sup>2)</sup>, Reiko Goto<sup>2)</sup>, Minoru Koga<sup>3)</sup>, Yasushi Miyagawa<sup>1)</sup>, Kiyomi Matsumiya<sup>1)</sup>, Kazuhiko Yamada<sup>2)</sup>, Shiro Takahara<sup>1)</sup>

1) Department of Urology, Osaka University Graduate School of Medicine, Suita, Osaka, Japan

2) Department of Regenerative Medicine, National Cardiovascular Center, Suita, Osaka, Japan

3) Department of Urology, Osaka Central Hospital, Osaka, Japan

心移植における FlowPRA 法を用いた HLA 抗体検出の意義

山本 賢<sup>1)</sup>, 佐藤 清<sup>1)</sup>, 佐田 正晴<sup>2)</sup>, 永谷 憲歳<sup>2)</sup>, 中谷 武嗣<sup>3)</sup>

1) 国立循環器病センター臨床検査部

2) 国立循環器病センター再生医療部

3) 国立循環器病センター臓器移植部

### 3. 本文-1：日本語での投稿

・2 頁目から、和文要旨（400 字以内）および 250 words 以内の英文要旨、キーワード（日本語および英語、それぞれ 5 語以内）を記載する。なお、英文要旨について、著者グループのみでは作成が難しい場合には、編集委員会による対応も可能であるので、投稿レターにその旨を明記すること。

・ページ替えて、「はじめに」、「材料と方法」、「結果」、「考察」、「引用文献」の順に記載する。

- ① 専門用語以外は常用漢字、新かなづかいに従い記述する。
- ② 本文中の英単語は固有名詞を除き全て小文字で統一する。
- ③ 地名、人名、学名は原語のまま用い、薬品名は一般名を用い商品名は括弧内に記す。
- ④ 単位、数量は国際単位(cm, ml, g, Kg, pg,μl, %,℃など)を、数字はアラビア文字を用いる。
- ⑤ 遺伝子名（シンボル）はイタリックで表記する。例えば、HLA-DRB1（タンパク名として用いる場合はイタリックにしない）

### 4. 本文-2：英語での投稿

・2 頁目に 250 words 以内の要旨、キーワード(5 語以内)を記載する。

・3 頁目より、「Introduction」、「Materials and Methods」、「Results」、「Discussion」、「References」の順に記載する。

- ① 地名、人名、学名は原語のまま用い、薬品名は一般名を用い商品名は括弧内に記す。
- ② 単位、数量は国際単位(cm, ml, g, Kg, pg,μl, %,℃など)を、数字はアラビア文字を用いる。
- ③ 遺伝子名（シンボル）はイタリックで表記する。例えば、HLA-DRB1（タンパク名として用いる場合はイタリックにしない）

### 5. 本文-3：略語一覧の作成【作成要項】

- ① 略語はアルファベット順に並べる。
- ② 略語の後に「：」を入れ，フルスペル（小文字）を記載する。例）LCT：Lymphocyte cytotoxicity test
- ③ 商品名は略語一覧に入れない

## 6. 引用文献

引用文献は本文中の引用箇所の右肩に片カッコ付きで番号を付し，引用順に一括して，以下の例に従って，著者名，論文名，雑誌（もしくは書）名（英文の場合はイタリック表記），巻（号），頁初と頁後のページ，発表年を記載する。著者名，編集者名は筆頭者から 3 名まで列記し，4 名以上は他または et al.とする。

1. Shi Y, Yoshihara F, Nakahama H, et al.: A novel immunosuppressant FTY720 ameliorates proteinuria and alterations of intrarenal adrenomedullin in rats with autoimmune glomerulonephritis. *Regulatory Peptides* 127(1-3): 233-238, 2005.
2. Tongio M, Abbal M, Bignon JD, et al.: ASH#18: HLA-DPB1. Genetic diversity of HLA Functional and Medical Implication (ed. Charron D), Medical and Scientific International Publisher, p.134-136, 1997.
3. 難波行臣, 今尾哲也, 石黒 伸 他：既存抗体陽性生体腎移植後に生じた抗体関連型拒絶反応に対して血漿交換および免疫グロブリン大量療法（IVIG）が奏効した 1 例. *血管外科* 17(1): 36-40, 2005
4. 佐田正晴, 高原史郎：腎移植-組織適合と拒絶反応. 新図説泌尿器科学講座 6「腎疾患, 神経泌尿器科, 老年泌尿器科」(吉田修 監修), Medical View 社, p.120-125, 2000.

## Ⅲ. 短報（研究速報，技術速報などを含む），症例報告執筆書式

### 1. 執筆要項

400 字詰め原稿用紙換算で 15 枚(刷り上がり 6 頁程度)以内とする。図，表，写真は，1 点につき

原稿用紙 1 枚分に該当するものとし、それぞれに表題を記載し、挿入箇所を本文に明記する。また、図説は別紙で作成し、本文の杣後に添付する。本文は Microsoft Word で作成し、表は Microsoft Word もしくは Microsoft PowerPoint, 図, 写真は Microsoft PowerPoint を使用する。

原稿は記憶媒体（CDR 等）に保存もしくは Email 添付で投稿レターを添えて編集長に送付する（送付先は投稿・執筆規定の末尾を参照）。

## 2. 第 1 頁目

表紙とし「短報」「症例報告」を明記し、日本語と英語でタイトル、著者全員の氏名と所属、連絡責任者の住所、氏名、電話番号、FAX 番号、E-mail アドレスを記載する。タイトル、著者名、所属等の記載は「原著」の形式に従う。

## 3. 本文(日本語および英語での投稿)

- ・ 2 頁目に、英文要旨（200 words 以内）、キーワード（3 語以内）を記載。
- ・ 3 頁目以降は、原著執筆書式 3. の 3 頁目以降に準じる。

## IV. 総説, シリーズその他

原則として、編集委員会からの依頼とするが、会員からの投稿も大いに歓迎する。日本語、英語のいずれも可とする。総原稿枚数は編集委員会で指定し、原著執筆書式に準じるが、本文構成の一部（「材料と方法」、「結果」、「考察」等）については、適宜変更することも可能である。

## V. 原稿送付先

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 2-2

大阪大学大学院医学系研究科 J8

先端移植基盤医療学内

日本組織適合性学会誌 MHC

編集長 木村 彰方

担当 谷本 佳澄

<E-mail : [tanimoto@att.med.osaka-u.ac.jp](mailto:tanimoto@att.med.osaka-u.ac.jp)>

Tel: 06-6879-3746

Fax: 06-6879-3749